

# 2025年3月期第2四半期決算 2025年3月期業績予想 中期経営計画の進捗

オリエンタル白石株式会社（プライム市場1786）

2024年11月28日  
代表取締役社長 大野達也



## Agenda

**I 2025年3月期第2四半期決算概要**

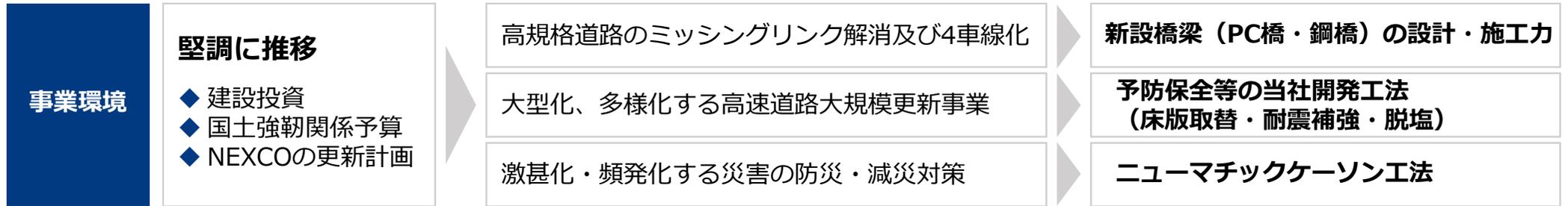
**II 業績予想**

**III 中期経営計画（2023-2025）の概要及び進捗**



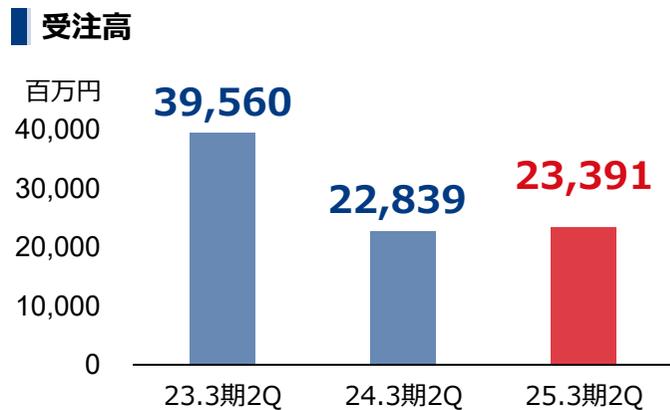
# I | 2025年3月期第2四半期決算概要

# 事業環境・受注



	2023年3月期 第2四半期 実績	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	前年同期比 増減率 (%)	コメント
<b>受注高</b>	39,560	22,839	23,391	2.4	・ 公共投資が堅調に推移する中、繰越量の確保を見込んだ選別受注を進める
<b>受注残高</b>	101,397	89,925	88,539	△1.5	・ 若干減少するも、一定の受注残高を確保

受注高  
受注残高

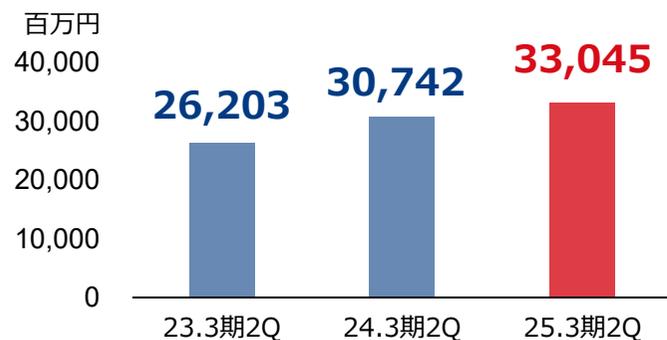


# 売上・損益

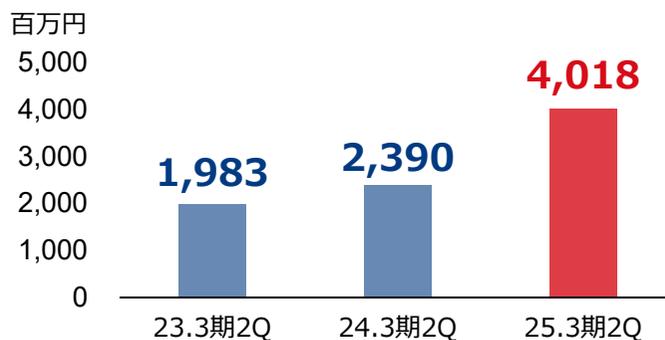
単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期 実績	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	前年同期比 増減率 (%)	コメント
売上高	26,203	30,742	33,045	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>手持工事が大きな工程の遅れも無く順調に進捗</li> <li>第3四半期以降も円滑な工事進捗を図り売上目標達成を見込む</li> </ul>
売上総利益	4,680	5,607	6,864	22.4	
営業利益	1,983	2,390	4,018	68.1	
経常利益	2,115	2,453	4,060	65.5	
親会社株式に帰属する 中間純利益	1,448	1,674	2,739	63.6	

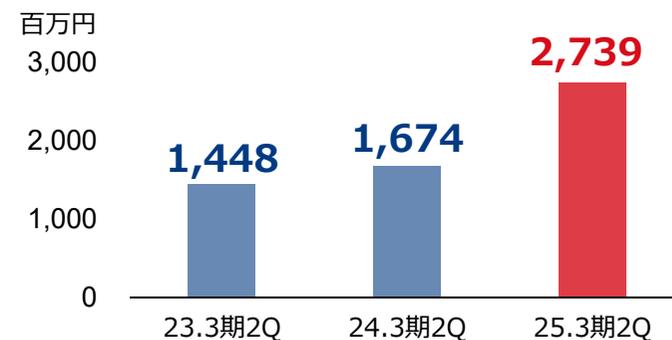
## 売上高



## 営業利益



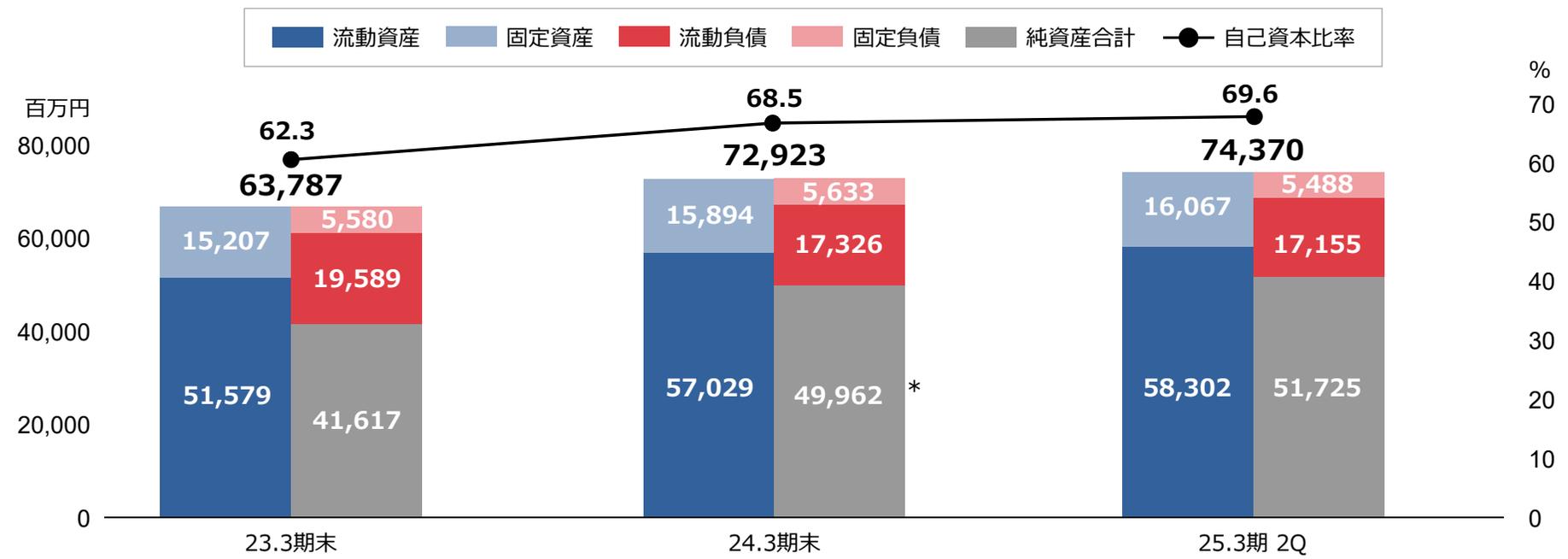
## 中間純利益



# 財務状況

<b>主な 増減要因</b>	<b>● 流動資産</b>	<b>● 固定資産</b>
	現金及び預金.....+4,515	建設仮勘定.....+399
	未収消費税等.....△1,982	無形固定資産.....△146
	受取手形・ 完成工事未収入金.....△498	
	立替金.....△452	
<b>前期末比 1,446 (2.0%) ↑</b>		

<b>主な 増減要因</b>	<b>● 流動負債</b>	<b>● 固定負債</b>
	未成工事受入金.....+1,197	退職給付に係る負債.....+108
	未払法人税等.....+806	繰延税金負債.....△277
	賞与引当金.....+902	
	支払手形・ 工事未払金.....△3,185	
<b>前期末比 316 (1.4%) ↓</b>		



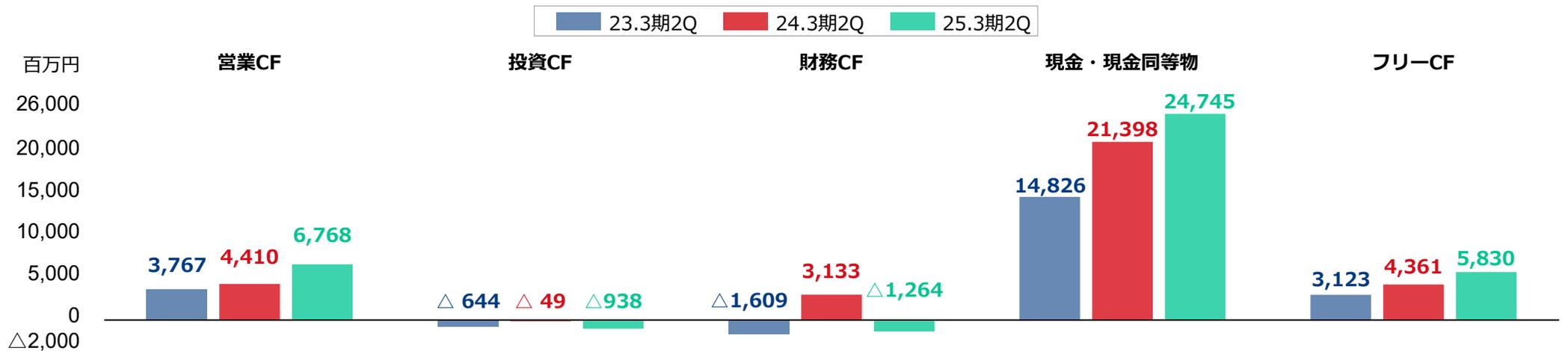
\* 資本業務提携による第三者割当増資により  
資本金および資本準備金50億円増

# キャッシュ・フローの推移

単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期
営業CF	3,767	4,410	6,768
投資CF	△644	△49	△938
財務CF	△1,609	3,133	△1,264
現金・現金同等物中間期末残高	14,826	21,398	24,745
フリーCF*	3,123	4,361	5,830

\*フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー - 投資キャッシュフロー





## Ⅱ | 業績予想

# 業績予想

■ 建設事業 ■ 鋼構造物事業 ■ 港湾事業

単位   百万円	24.3期2Q	25.3期2Q	25.3期
	実績	実績	予想
<b>受注高*</b>	<b>22,839</b>	<b>23,391</b>	<b>61,500</b>
建設事業	18,200	17,658	49,700
鋼構造物事業	2,682	4,386	8,400
港湾事業	1,847	1,227	3,400
<b>売上高*</b>	<b>30,742</b>	<b>33,045</b>	<b>65,000</b>
建設事業	25,469	27,440	53,200
鋼構造物事業	3,562	4,245	8,500
港湾事業	1,604	1,237	3,300
<b>営業利益*</b>	<b>2,390</b>	<b>4,018</b>	<b>5,000</b>
建設事業	2,163	3,645	4,500
鋼構造物事業	299	405	400
港湾事業	△94	△67	100
<b>経常利益</b>	<b>2,453</b>	<b>4,060</b>	<b>5,000</b>
<b>親会社に帰属する純利益</b>	<b>1,674</b>	<b>2,739</b>	<b>3,500</b>

## コメント

### 受注高

【建設事業】PC土木、ニューマチックケーソンは前期より低調であるが、補修補強、PC建築の増加で目標達成を見込む

【鋼構造物事業】新設橋梁が苦戦する中、補修補強・塗装塗替工事で目標達成を見込む

【港湾事業】プロジェクトの谷間で大型工事が減少するも、中小の土木・港湾工事で受注を確保

### 売上高

【建設事業】大型工事を中心に順調に進捗すると予想

【鋼構造物事業】手持ち工事が後半も順調に進捗すると予想

【港湾事業】単年度工事の売上が後半伸びると予想

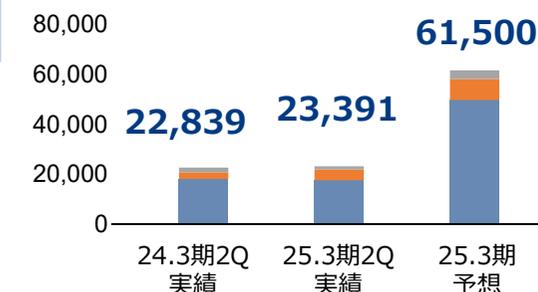
### 利益

【建設事業】利益改善や設計変更で目標達成を見込む

【鋼構造物事業】売上の確保に加え、設計変更により目標達成を見込む

【港湾事業】売上は減少するも、原価低減による利益改善により目標達成を見込む

## 受注高



## 売上高



## 営業利益



\* 受注高・売上高・営業利益  
太陽光発電事業、不動産賃貸事業及びインターネット関連事業、セグメント間取引消去等を含む



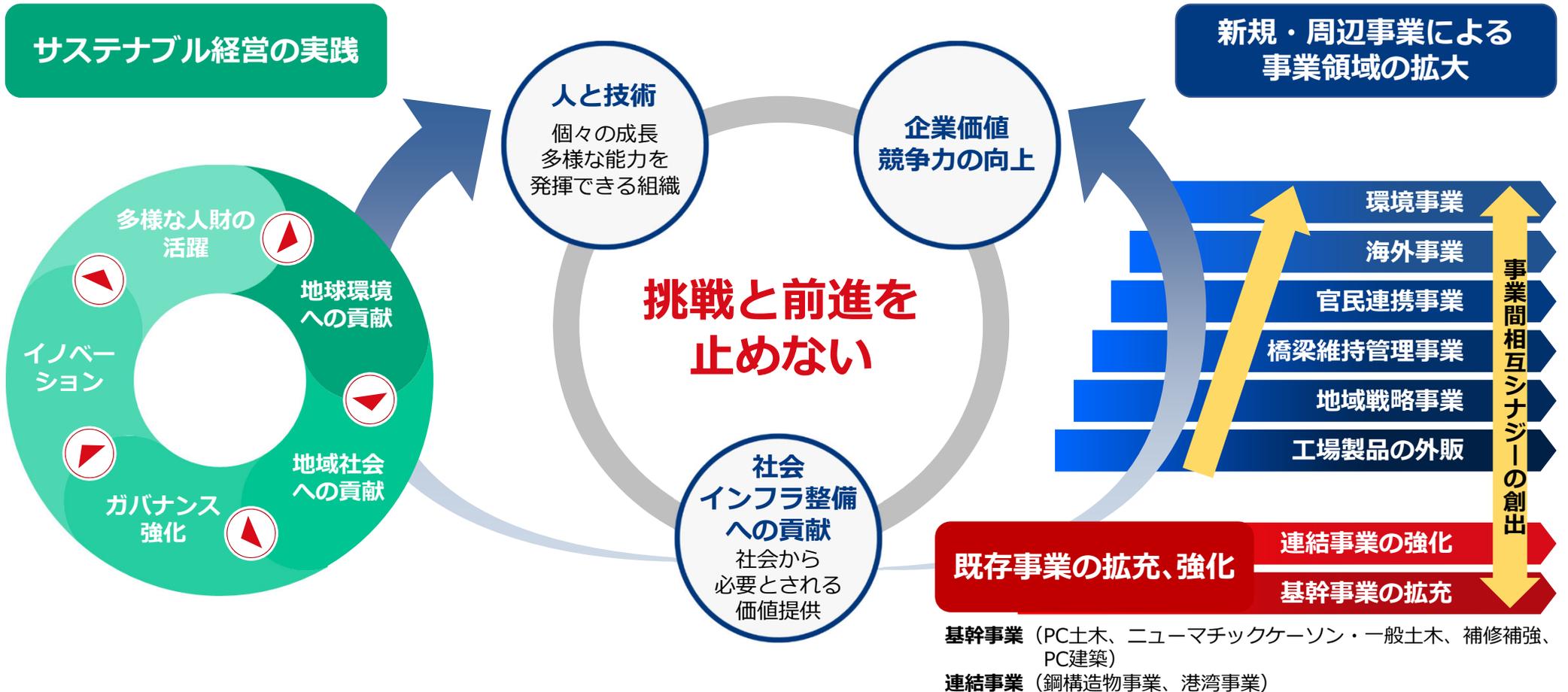
### Ⅲ

# 中期経営計画(2023-2025)の概要及び進捗

※中期経営計画（2023-2025年度）2年目

# 2030年の将来像

人財と技術の多様性を活かし、社会インフラ整備の様々な需要に応え、挑戦と前進を続ける企業集団



# 基本方針

## 中期経営計画の 基本方針

1



国土強靱化、インフラ老朽化対策などの社会的課題の解決に貢献し、これを業績の向上につなげる

2



基幹事業のさらなる充実、連結事業の強化、新規・周辺事業の成長と領域拡大を推進し、グループ全体の発展を図る

3



DXや技術開発、他社・他業種との連携により、事業生産性を高める

4



教育、研修など“人への投資”を促進し、競争力豊かな人財の構築を図る

5



バランスのとれた投資、還元戦略を実行する

6



カーボンニュートラルに向け、脱炭素施策の推進と技術開発を継続する

# 定量目標の進捗

## 中期経営計画（2023～2025年度）

### 企業価値向上と成長戦略

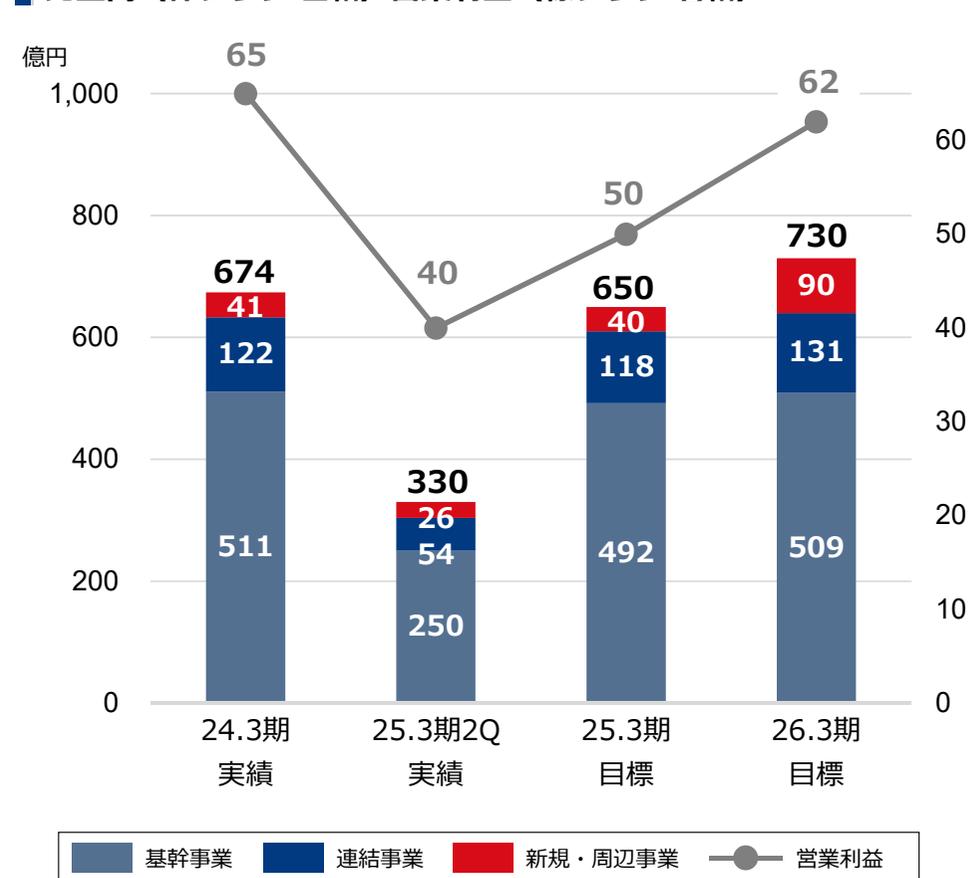
	2024年3月期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	2026年3月期 目標
売上高	674億円	330億円	730億円
営業利益	65億円	40億円	62億円
当期純利益	46億円	27億円	45億円
投資累計額*	26億円	43億円	220億円
D/Eレシオ	0.07	0.06	0.29

	2024年3月期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	2026年3月期 目標
ROE	10.1%	—	9.0%以上
配当性向	40.2%	—	50.0%以上
総還元性向	42.0%	—	70.0%以上
PBR	1.1	1.0	1.0以上

### 株主に対する還元効率

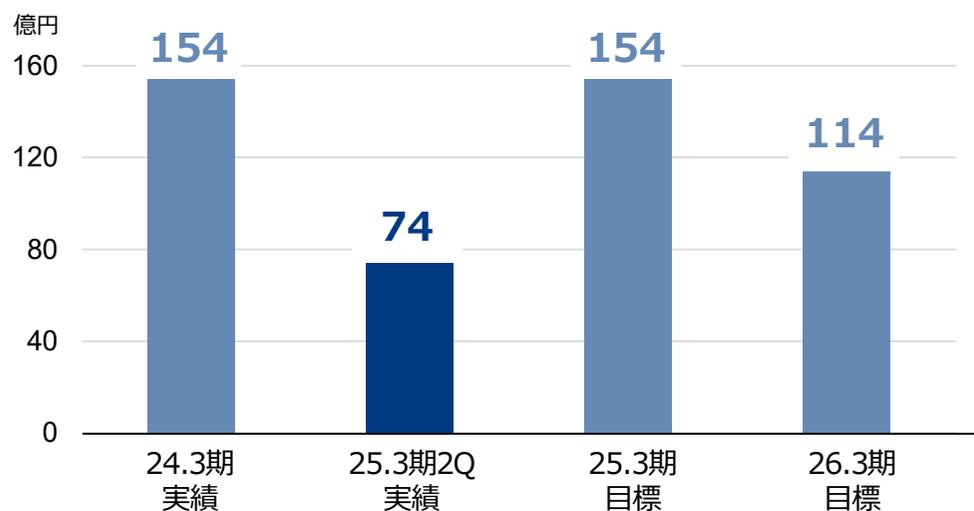
■ 売上高（棒グラフ/左軸） 営業利益（線グラフ/右軸）



\* 投資累計額：中期経営計画(2023-2025)の期間における投資累計額

## PC土木（新設橋梁他）

### 売上高



### 施策

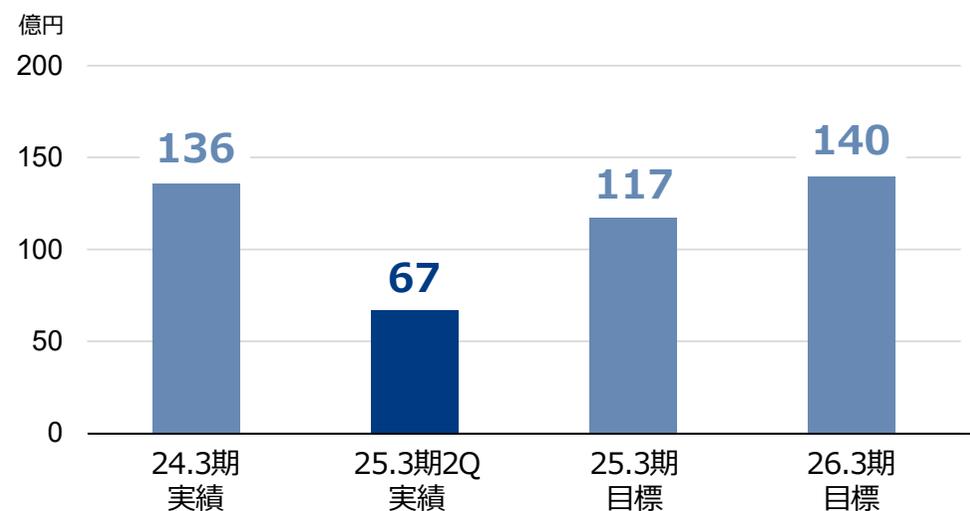
- ◆ 公共工事におけるシェアと実績の拡大
  - ① 総合評価力、技術提案力の強化
  - ② 特化工法の採用拡大
  - ③ モノレールや高速道路6車線化など難易度の高い工事での実績

### 進捗

- ◆ 北勢第三高架橋、竹辺1号橋等の大型工事が竣工。他の手持ち工事が順調に進捗
- ◆ すさみ串本道路工事、北海道新幹線橋梁工事が着工

## ニューマチックケーソン／一般土木

### 売上高



### 施策

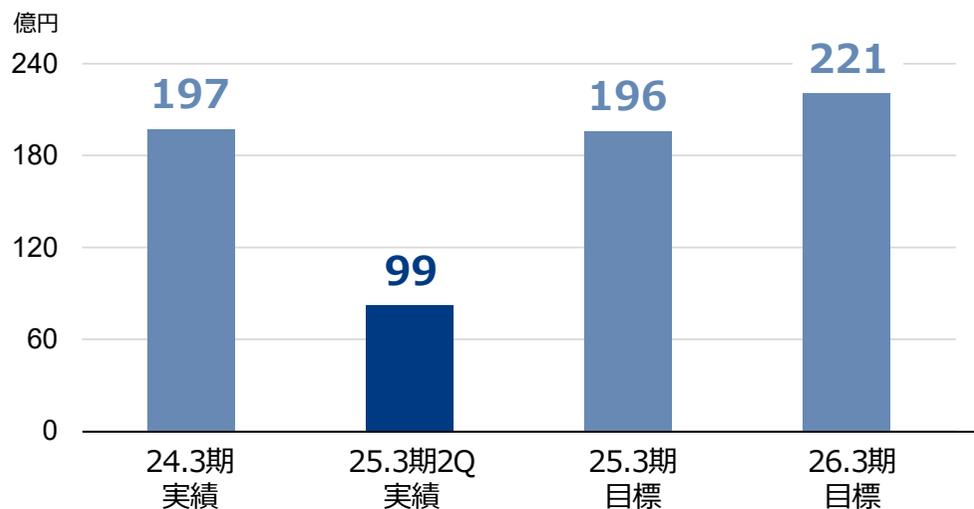
- ◆ ニューマチックケーソンの橋梁と治水設備等への事業拡大
  - ① 継続的な設備投資による技術と施工能力の向上
  - ② 技術開発による遠隔化、自動化など生産性と安全性の向上
  - ③ 大型工事の期ズレ影響、その影響緩和を図る技術営業強化による工法の採用拡大

### 進捗

- ◆ 大型立坑ケーソン工事が竣工。手持ちのポンプ場ケーソン工事・橋梁ケーソン工事が順調に進捗
- ◆ 新規橋梁ケーソン工事が順次着工

## 補修補強

### 売上高



### 施策

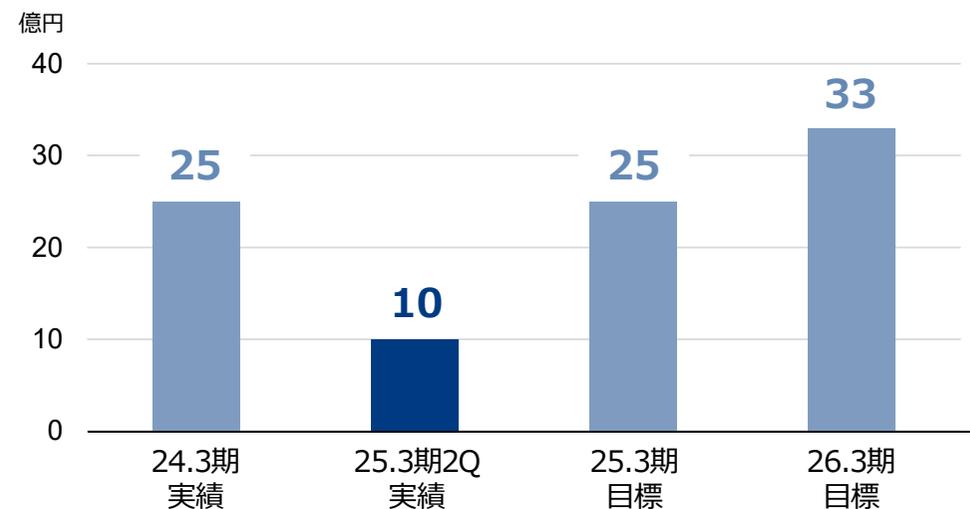
- ◆ 事業量の確保と収益力の維持を図る
  - ① 特化工法の開発と採用拡大
  - ② 事業量の確保とともに特殊技術によるブルーオーシャンの開拓
  - ③ 長期大型工事の戦略的受注

### 進捗

- ◆ 床版取替工事等の大規模更新工事が順調に進捗
- ◆ 後半は、大規模更新事業の集中工事等が本格化し、売上目標の達成を見込む

## PC建築

### 売上高



### 施策

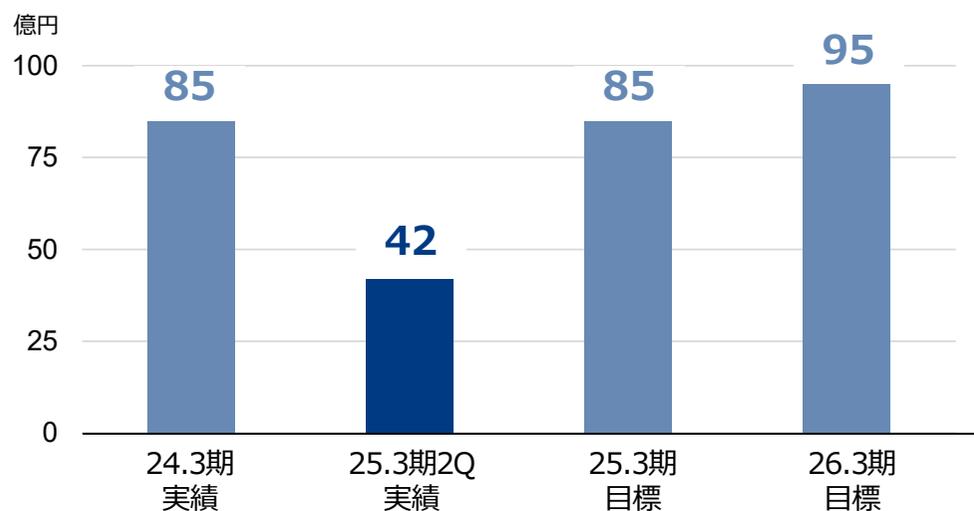
- ◆ プレキャストコンクリートのすう勢の中でのPC構造の関係を拡大する
  - ① 元請下請連携強化による積極的な大型プロジェクト等への参画
  - ② 顧客基盤の強化と積極的な提案

### 進捗

- ◆ アリーナ建築工事が竣工
- ◆ 半導体工場施設、スタジアム施設等のPC建築工事が進捗

## 鋼構造物事業

### 売上高



### 施策

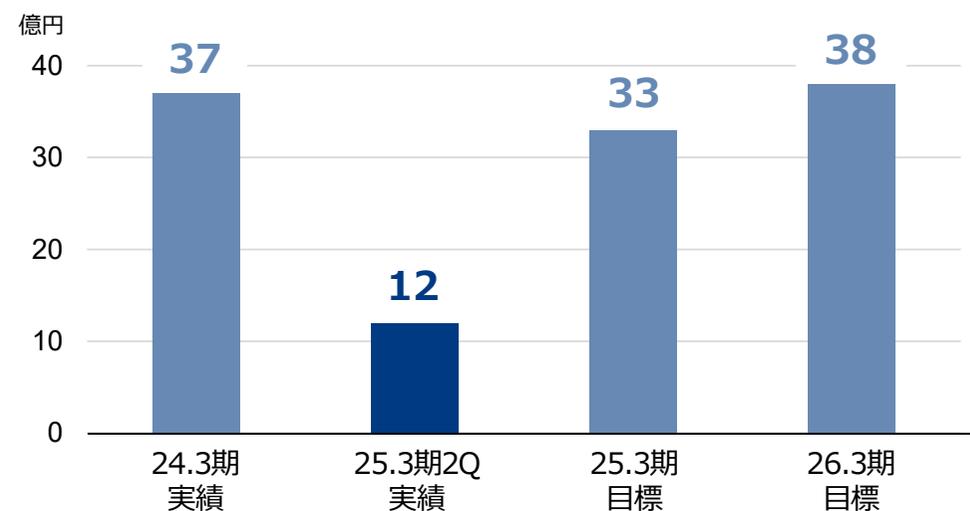
- ◆ 新設橋梁と補修補強のバランスの中で売上・利益の拡大を図る
  - ① 総合評価力と設計・施工体制の強化
  - ② IH塗膜剥離工法など鋼構造周辺事業への注力

### 進捗

- ◆ 大型の新設橋梁が竣工、補修補強工事の比率が増加
- ◆ 手持ちの元下請補修補強工事の順調な進捗により売上目標の達成を目指す

## 港湾事業

### 売上高



### 施策

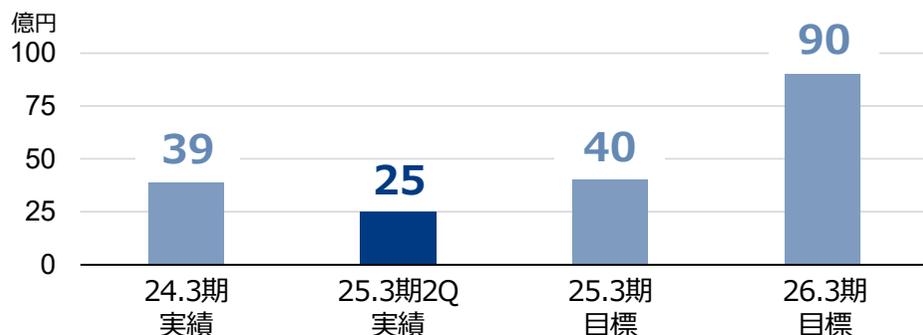
- ◆ 港湾、土木の中小工事で受注・売上を確保するとともに今後本格化するカーボンニュートラルポートプロジェクトへの準備を進める
  - ① 地域に密着した事業展開
  - ② グループのシナジーを活かした橋梁事業への展開

### 進捗

- ◆ 小名浜港開発プロジェクトの谷間にあるも、中小規模の港湾、建築、土木工事で売上確保
- ◆ 単年度工事が多く、年度後半に向けての売上増を予測

## 新規・周辺事業

### 売上高



#### 工場製品外販

床板、PCaコンクリート製品の外販

#### 地域戦略事業

地域に強みのある会社を提携やM&Aで更に強化

#### 橋梁維持管理事業

橋梁の点検・診断、補修、補強、鋼橋塗装塗替

#### 官民連携事業

橋梁インフラ維持管理

#### 海外事業

ニューマチックケーソンやPC・補修補強の技術を他社連携のもと、海外で活かす

#### 環境事業

循環型農業（アクアポニックス）システム外販 等

#### 進捗

床板・Pcaコンクリート製品等の外販売上、太陽光発電、不動産賃料等で売上。海外工事に着手  
 今後については、下記に注力  
 ◆ Pcaコンクリート製品外販の販路拡大  
 ◆ グループシナジーが期待できるM&Aの展開

### 主な取組

#### M&A

①地域戦略②サプライチェーン戦略③新規事業戦略④組織強化の4つの戦略のもと各戦略毎に対象ターゲットを選定し、次の展開に臨む

#### 床版外販事業

ゼネコン等への床版販売拡大に向けて、技術提供等の販売戦略を策定  
 伊藤忠商事の販売網を活用し、販路を開拓中

#### 官民連携事業

国土交通省の「官民連携モデリング」事業の成果品を納品  
 自治体に対して、事業化に向けて展開交渉中

#### 環境事業

循環型農業（アクアポニックス）の事業化にむけてさらなる改善を図るとともにビジネススキームを検討

#### 海外事業

ニューマチックケーソン技術を用いた海外展開に向けて着工  
 海外企業と当社開発工法の技術提供契約を締結

#### クリエイティブ・ラボ

業界の担い手確保を目的にエンタメ×建設で建設産業のプロモーションを推進し、顧客増加  
 土木学会「土木広報大賞」2部門受賞

# 投資戦略

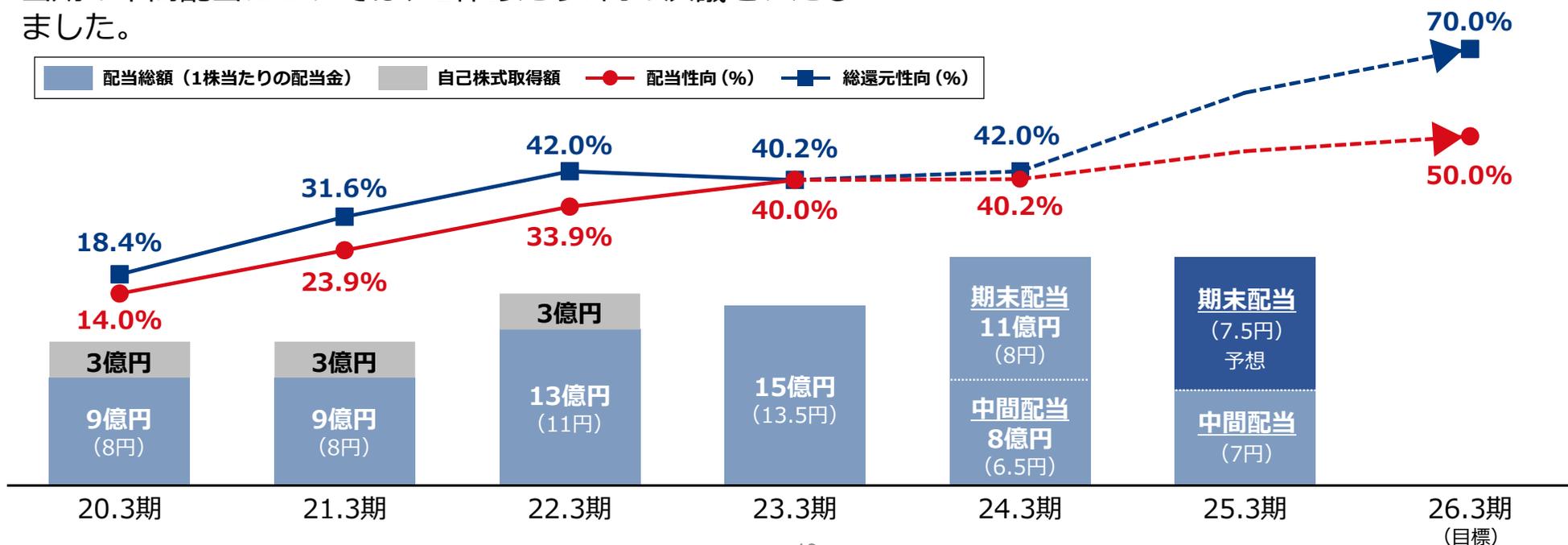
区分	投資内容	投資 予定額	投資 実績額	活動状況
経常投資	継続的な研究開発	50 億円	19 億円	材料や構造、新技術、新工法に関する研究課題、IT、DX、AI等を用いた生産性向上や脱炭素に関する技術開発に注力
	ケーソン設備・機材の更新			ケーソン機材等の更新 ケーソン工法の大規模工事に向けた台数増強、遠隔施工、大深度化、安全性向上に向けた機械の性能強化に投資
成長投資	地域戦略や事業領域の拡大	110 億円	22 億円	M&Aの継続的検討 地域の選定、今後の市場動向及び、グループとの事業シナジーを調整 該当地域の企業（人材・強み）の把握、選定
	施工の自動化、省力化の推進			橋梁架設施工機械の改造・製造 ケーソンショベルの掘削自動運転 業務効率化に資するシステムソフトの外注・取得
	工場の製造能力強化、 港湾工事の強化			コンクリート製品製造能力の向上を図る工場のリニューアル・増強 港湾工事の施工能力向上や環境対応を意図した新造船
	橋梁維持管理事業への投資			橋梁維持管理事業を進めるための、補修補強機械や、計測機器、システム構築、調査・点検・補修会社のM&Aや提携
	人的資本への投資			個々の能力を最大限に引き出す教育の強化 社員エンゲージメント調査実施 処遇改善等職場環境整備に投資
戦略投資	PCaコンクリート製品製造の強化	60 億円	2 億円	PCaコンクリート製品販売強化に向けての戦略構築（提携、工場買収） 循環型農業システム「アクアポニックス事業」の実用化に向けた投資
	官民連携、地域戦略事業への投資 橋梁維持管理事業への投資			国交省による「インフラ運営等に係る民間提案型【官民連携モデリング】」における橋梁維持管理事業の成果品納品 いくつかの自治体に対して、同事業の展開交渉

# 財務戦略（株主還元）

## ■ 配当予想（2025年3月期）14.50円（ご参考：配当・自社株買方針）

安定的な利益配当を継続して実施することを基本方針とし、2026年3月期の配当目標を40%から50%へ引き上げます。配当に加え、成長投資の成果や進捗状況を勘案した上で、資金余剰が生じたと判断した場合は、機動的な自己株式取得で対応します。当期の中間配当については、1株あたり7円の決議をいたしました。

目標	2023年3月期	2026年3月期
配当性向	40%	50%以上
総還元性向	40%	70%程度







# Appendix

## 生産性向上

### ■ ニューマチックケーソンの自動運転・長距離遠隔操縦

建設業全体における労働人口の減少傾向が続く中、ニューマチックケーソン工法においても専門技術者の確保が課題となっています。また、大深度化や大断面化の要求が増加しており、さらなる生産性向上と建設技術者の作業環境改善が求められています。これに対応するため、ICT技術の積極的な活用や現場管理のデジタル化、長距離拠点からの遠隔操作による効率的な施工管理を目指しています。また、施工プロセスにおける自動化技術を導入し、作業負担の軽減と安全性の向上を図るとともに、精度と作業効率の向上を目指しています。

そのため以下の取り組みを進め将来的には、ICTを基盤としたスマートな現場環境を構築し、施工状況や機材の状態をリアルタイムで把握できる管理体制を整えることを目指しています。また、危険を伴う作業の自動化やロボティクス技術によって対応することで生産性の向上を図りながら、作業員が安全かつ長期的に働ける環境の実現を目指します。

#### 01 ケーソンショベル 自動運転システム

3D地盤計測による地下測量業務のデジタル管理・効率化、遠隔操縦ショベルと自動運転ショベルによる地山掘削・運搬作業の自動化に関する現場試行 



図-1 自動運転システムによる掘削  
(左:地下空間、右:地上可視化画面)

#### 02 ケーソンショベル長距離遠隔操縦

衛星通信や光回線を利用した、遠隔地から各現場のケーソンショベル操縦の実現を目指す通信試験 

#### 03 計測ログクラウド監視システム

ネットワークを活用して計測データをクラウド上に集約し、リアルタイムで監視・管理できるシステムの検討

#### 04 ケーソンショベル無人組立・解体

函内作業の低減を目的とした機材接合部の改良ならびに無人解体技術の現場運用



図-2 豊洲オフィスとつくば研修施設間の遠隔操縦試験

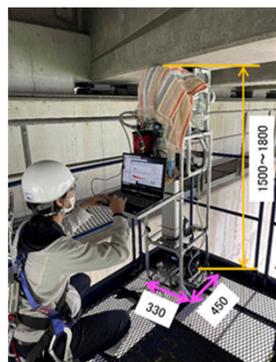
## 技術開発に対する社会的評価（維持管理の長寿命化・インフラの長寿命化・建設DX）

労働人口の減少やインフラの長寿命化や維持管理の高度化等の設備建設業界における諸課題に対して、当社が取り組んできた技術開発が、公的機関を含む社外より高く評価されました。

### ■ 中性子によるコンクリート塩分濃度非破壊検査の技術研究開発(RANS- $\mu$ )

◆「令和5年度 新道路技術会議 優秀技術研究開発賞」受賞

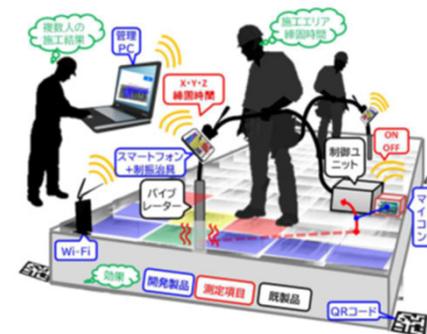
カリフォルニウム中性子線源(Cf線源)、および、中性子誘導ガンマ線元素分析を利用した、非破壊でその場で塩分濃度を定量評価可能な、ポータブル(橋梁点検車両に搭載可能な)中性子塩分濃度計(以降、塩分計)の開発し実構造物への適用を拡大しております。なお、本開発は国立研究開発法人理化学研究所と共同研究として実施しています。



### ■ コンクリート締固めAR管理システムの開発

◆「R5年度 プレストレストコンクリート工学会 技術開発賞」  
◆「R5年度 国土交通省中国地方整備局 中国インフラDX表彰」受賞

従来、感覚で行っていたコンクリートの打込み作業における、複数人の締固め位置や締固め時間の施工情報をリアルタイムにAR（拡張現実：Augmented Reality）として可視化する革新的な管理手法を開発し実構造物への適用を拡大しております。なお、本開発は株式会社イクシスとの共同研究として実施しています。



### ■ PC鋼材、定着具、鉄筋にステンレス鋼を用いた新たな高耐久プレストレストコンクリート構造の開発

◆「令和5年度 新道路技術会議 優秀技術研究開発賞」受賞

内部鋼材のすべてにステンレス鋼を用いることにより、鋼材腐食の懸念を一切なくした高耐久のプレストレストコンクリート(PC)構造の開発に取り組んだものです。特にポストテンションPC構造について、ステンレス鋼を用いたPC定着具を新たに開発し、実用可能な施工性、力学性能、耐久性を有したプロトタイプのプロトタイプPC構造を開発しました。なお、本開発は、国立大学法人長岡技術科学大学、学校法人金沢工業大学、愛知製鋼株式会社、日鉄SGワイヤ株式会社との共同研究として実施しています。

# 建設業界のイメージアップ

## クリエイティブ・ラボの事業

### 土木の科学展

2024年7月27日～9月1日の夏休み期間中、姫路科学館の夏休みの特別展示企画「暮らしを支える土木の科学展」を開催いたしました。

本展示会はクリエイティブ・ラボが姫路市教育委員会からの委託を請け実施したもので、土木と科学の関係を切り口に、土木の存在・魅力・意義を子どもたちに知ってもらうことを目的に企画いたしました。

来場者は約16,000人と非常に多くの方に楽しんでいただくとともに、土木の大切さを知って頂く機会を提供することができました。



特別展  
暮らしを支える  
**土木の科学展**  
ドボク カガク  
「カガクでドボクが近くなる！」

開催期間 2024年7月27日(土) ▶ 9月1日(日)  
火曜休館(8月13日は臨時開館)

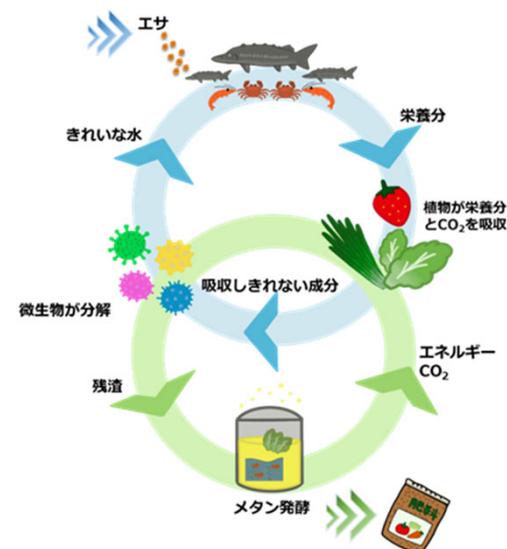
開催場所 姫路科学館 1F 特別展示室  
特別展観覧料 一般200円 小中高生100円

# 新規事業

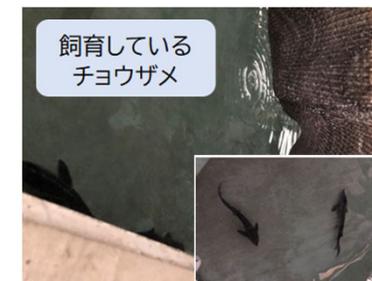
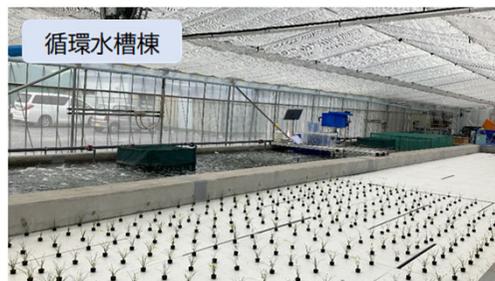
## アクアポニックス事業

### 循環水による利用による水耕栽培・養殖を実現する高効率システム開発

当社の新アクアポニックスシステムは、水生生物の排泄物を含む排水を調整水槽に通すことで栄養素や pH がコントロールされた水が直接水耕野菜ベッドに送られ、植物根圏微生物によって分解されたアンモニウムイオンと硝酸イオンを植物がバランスよく吸収し成長、さらに独自に開発した包括固定化担体による生物濾過槽によって微生物が残留物を効果的に分解・吸収し、最終的に浄化された水が養殖水槽に戻るという効率的な循環が成立している画期的なシステムです。この新アクアポニックスシステムに加え、微生物による分解過程の残渣や廃棄物を利用したメタン発酵システムを連動させることで、エネルギーの生成を可能にし、最終的な残渣は高品質の肥料として活用するという、「究極の SDGs 農漁業」を目指しています。



資源循環型システムが目指す8の字サークル



## より満足度の高い職場づくりへの取組

### ■ ユニフォームリニューアル

RENEWAL

デザイン、機能性、着心地の良さを改善する為、ユニフォームを刷新しました。



